平成23年10月期　第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年9月8日

上場会社名　株式会社トップカルチャー　上場取引所　東
コード番号　7640　URL http://www.topculture.co.jp
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）清水 秀雄
問合せ先責任者　（役職名）取締役管理部長　（氏名）遠海 武則　(TEL)025(232)0008
四半期報告書提出予定日　平成23年9月12日　配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

（百万円未満切捨て）

1.　平成23年10月期第3四半期の連結業績（平成22年11月1日～平成23年7月31日）

(1) 連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年10月期第３四半期	25,282	△1.2	904	67.9	863	49.6	389	59.9
22年10月期第３四半期	25,587	15.4	538	△4.8	576	△7.6	243	△17.2

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
23年10月期第３四半期	32.45	32.33
22年10月期第３四半期	20.29	20.22

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円　銭
23年10月期第３四半期	24,126	7,536	31.0	623.07
22年10月期	22,349	7,422	33.0	613.87

（参考）　自己資本　23年10月期第３四半期　7,476百万円　22年10月期　7,364百万円

2.　配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
22年10月期	―	0.00	―	15.00	15.00
23年10月期	―	7.50	―		
23年10月期(予想)				7.50	15.00

（注）　当四半期における配当予想の修正有無　：　無

3.　平成23年10月期の連結業績予想（平成22年11月1日～平成23年10月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円　銭
通期	35,000	3.3	1,080	15.0	1,100	12.6	460	1.0	38.33

（注）　当四半期における業績予想の修正有無　：　無

4.　その他（詳細は、【添付資料】P.５「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動　　：　無

新規　　社（　　）、除外　　社（　　）

（注）　当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用　　：　無

（注）　簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①　会計基準等の改正に伴う変更　　：　有

②　①以外の変更　　：　有

（注）　「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年10月期3Q	12,688,000株	22年10月期	12,688,000株
②　期末自己株式数	23年10月期3Q	688,265株	22年10月期	690,765株
③　期中平均株式数（四半期累計）	23年10月期3Q	11,998,187株	22年10月期3Q	11,997,235株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）４ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 …… 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 …… 4
2. その他の情報 …… 5
(1) 重要な子会社の異動の概要 …… 5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 …… 5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 …… 5
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 …… 5
3. 四半期連結財務諸表 …… 6
(1) 四半期連結貸借対照表 …… 6
(2) 四半期連結損益計算書 …… 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 ……10
(4) 継続企業の前提に関する注記 ……12
(5) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更 ……12
(6) セグメント情報 ……12
(7) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……14
4. 補足情報 ……15
商品別売上状況 ……15

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間におきましては、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により急速に落ち込んだ個人消費が一部回復の兆しが見られるものの、本格的な景気回復には至っておらず、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは「日常的エンターテイメント」をコンセプトにお客様の期待を超える新しい発見と感動を味わえる提案性の高い売場づくりに注力し、店舗価値の向上に取り組んでまいりました。また、今期より新設した営業本部を中心に管理体制を強化し、店舗収益力の向上に努めてまいりました。

出退店につきましては、統合閉店２店（TSUTAYA深谷店を蔦屋書店熊谷店へ統合、古本市場トップブックス佐和田店を蔦屋書店佐渡佐和田店へ統合）を実施した結果、当第３四半期連結累計期間末のグループ合計店舗数は73店舗（前年同四半期末は75店舗）となりました。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高25,282百万円（前年同期比98.8%）、営業利益904百万円（前年同期比167.9%）、経常利益863百万円（前年同期比149.6%）、四半期純利益389百万円（前年同期比159.9%）となりました。

売上・利益の増減要因

売上面につきましては、当社グループの主軸である蔦屋書店事業において、既存店の売上高が前年同期比100.1%と堅調に推移した一方、収益体質の改善として既存店の統合閉店を積極的に進めた結果、店舗数が前年同四半期末に比べて２店減少したことにより、前年実績を下回りました。なお、第２四半期に改装を行いBOOK&CAFEスタイルにリニューアルした３店はいずれも売上が好調に推移し、業績に寄与しております。

利益面につきましては、原価率の低減に取り組むとともに、前述のとおり収益体質の改善を進めたことによる固定費の削減や徹底したコスト効率の見直しにより販管比率が前年同期比1.1%減少した結果、営業利益は前年同期に比べ67.9%増益、経常利益は前年同期に比べ49.6%増益となり、いずれも過去最高益を達成いたしました。また、四半期純利益は、前年同期に比べ59.9%増益となりましたが、これは主に、経常利益の増加が主要因であることに加え、第１四半期に資産除去債務に関する会計基準適用に伴い特別損失158百万円を計上したことおよび当第３四半期までに統合閉店２店を実施したことに伴い特別損失６百万円を計上したこと（期初計画織込済）並びに第２四半期に投資有価証券売却に伴い特別利益28百万円を計上したことによるものであります。

セグメントの状況は、次のとおりであります。なお、各セグメントの業績値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

①蔦屋書店事業

当セグメントの当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高24,507百万円、セグメント利益843百万円となりました。

主力商品の売上高前年同期比は、書籍100.7％（既存店101.6％）、レンタル101.7％（既存店103.5％）、文具101.1％（既存店101.9％）、販売用CD93.7％（既存店95.4％）、販売用DVD97.5％（既存店99.1％）となりました。書籍は売上上位商品および定番商品の充足率強化に徹底して取り組んだことおよび商品提案力の強化が売上伸長に繋がりました。レンタルは品揃えの拡充が奏功し、好調に推移いたしました。文具は継続した定番商品の見直しとライフスタイル提案型の品揃えを進め、順調に売上を伸ばしております。販売用CD・DVDは売場効率の見直しに取り組んでおります。

②その他

当セグメントの当第３四半期連結累計期間の業績は、売上高778百万円、セグメント損失13千円となりました。

中古買取販売事業は、収益体質の改善として統合閉店１店（古本市場トップブックス佐和田店を蔦屋書店佐渡佐和田店へ統合）を実施した結果、売上は前年同期に比べ減少しましたが、粗利率の高い古本の買取販売に注力したことが奏功し、増益となりました。スポーツ関連事業は、サッカークラブ生およびサッカースクール生の会員獲得が順調に進んだことおよびイベント企画の強化により、売上を伸ばすことができました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産につきましては、前連結会計年度末比1,777百万円増加し、24,126百万円となりました。これは主に、リース資産が337百万円、敷金及び保証金が142百万円減少した一方、現金及び預金が1,957百万円、長期前払費用が215百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末比1,662百万円増加し、16,589百万円となりました。これは主に、長期借入金が返済により192百万円、リース債務が265百万円減少した一方、買掛金が1,494百万円、設備未払金が168百万円増加したことおよび資産除去債務を369百万円計上したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末比114百万円増加し、7,536百万円となりました。これは主に、利益剰余金が119百万円増加したことによるものであります。

当第３四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ1,957百万円増加し、3,150百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第３四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は、2,737百万円（前年同期比1,433百万円資金増）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が241百万円増加したことおよび当第３四半期連結累計期間の期末日が金融機関休業日であり仕入債務等の決済が翌営業日に繰越となったため、仕入債務の増加額が1,247百万円と大幅に増加したことによるものであります。なお、当第３四半期連結累計期間の期末日が金融機関休業日であったことによる影響を勘案した営業活動による資金の増加は、1,399百万円となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第３四半期連結累計期間における投資活動による資金の増加は、83百万円（前年同期比790百万円資金増）となりました。これは主に、連結の範囲の変更に伴う子会社株式の取得による支出が前年同期に比べ630百万円減少したことおよび敷金及び保証金の差入による支出が135百万円減少したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第３四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、863百万円（前年同期比674百万円資金増）となりました。これは主に、短期借入金の純増減額が前年同期に比べ350百万円増加したことおよび長期借入金の返済による支出が345百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第３四半期の業績が概ね計画通り推移していることから、平成22年12月８日に公表した通期の連結業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

【添付資料】12ページ「３．四半期連結財務諸表　(5) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおりであります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第３四半期連結会計期間末 (平成23年７月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,160,016	1,202,313
売掛金	244,616	237,616
商品	6,878,649	6,810,938
前払費用	272,950	254,242
繰延税金資産	65,949	86,636
未収入金	310,593	367,197
その他	86,185	12,008
貸倒引当金	△272	△309
流動資産合計	11,018,688	8,970,644
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,595,008	2,561,937
リース資産（純額）	3,019,341	3,356,581
その他（純額）	708,569	680,651
有形固定資産合計	6,322,920	6,599,170
無形固定資産		
のれん	234,530	291,485
その他	52,603	52,353
無形固定資産合計	287,133	343,838
投資その他の資産		
繰延税金資産	151,918	72,234
敷金及び保証金	4,141,386	4,283,717
その他	2,205,541	2,080,910
貸倒引当金	△1,420	△1,420
投資その他の資産合計	6,497,427	6,435,442
固定資産合計	13,107,481	13,378,451
資産合計	24,126,169	22,349,095
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,097,723	2,602,790
短期借入金	1,645,040	1,645,040
1年内返済予定の長期借入金	1,204,368	1,186,363
リース債務	464,929	539,896
未払法人税等	233,389	205,844
賞与引当金	40,000	90,000
未払金	489,965	417,046
その他	1,204,506	954,786
流動負債合計	9,379,922	7,641,766

（単位：千円）

	当第３四半期連結会計期間末 （平成23年７月31日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成22年10月31日）
固定負債		
長期借入金	3,531,474	3,724,290
リース債務	2,613,668	2,879,451
資産除去債務	369,376	―
退職給付引当金	122,260	125,572
役員退職慰労引当金	68,278	72,476
長期未払金	347,709	317,882
長期預り敷金保証金	157,026	165,563
固定負債合計	7,209,793	7,285,236
負債合計	16,589,716	14,927,002
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,007,370	2,007,370
資本剰余金	2,303,718	2,303,691
利益剰余金	3,489,893	3,370,480
自己株式	△307,942	△309,060
株主資本合計	7,493,039	7,372,481
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△16,378	△7,771
評価・換算差額等合計	△16,378	△7,771
新株予約権	36,230	37,639
少数株主持分	23,562	19,742
純資産合計	7,536,453	7,422,092
負債純資産合計	24,126,169	22,349,095

(2) 四半期連結損益計算書

【第３四半期連結累計期間】

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 平成21年11月１日 至 平成22年７月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 平成22年11月１日 至 平成23年７月31日）
売上高	25,587,120	25,282,756
売上原価	17,530,134	17,227,972
売上総利益	8,056,986	8,054,784
販売費及び一般管理費	7,518,236	7,150,451
営業利益	538,749	904,333
営業外収益		
受取利息	27,953	26,590
受取地代家賃	63,006	－
その他	56,608	45,187
営業外収益合計	147,567	71,778
営業外費用		
支払利息	109,318	112,851
営業外費用合計	109,318	112,851
経常利益	576,999	863,259
特別利益		
投資有価証券売却益	－	28,795
特別利益合計	－	28,795
特別損失		
減損損失	－	5,283
固定資産除却損	37,789	1,633
賃貸借契約解約損	54,221	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	－	158,479
特別損失合計	92,010	165,397
税金等調整前四半期純利益	484,988	726,657
法人税、住民税及び事業税	175,627	386,712
法人税等調整額	68,998	△53,244
法人税等合計	244,626	333,468
少数株主損益調整前四半期純利益	－	393,189
少数株主利益又は少数株主損失（△）	△3,107	3,819
四半期純利益	243,469	389,369

【第３四半期連結会計期間】

（単位：千円）

	前第３四半期連結会計期間 （自 平成22年５月１日 至 平成22年７月31日）	当第３四半期連結会計期間 （自 平成23年５月１日 至 平成23年７月31日）
売上高	7,684,481	7,745,301
売上原価	5,223,712	5,225,208
売上総利益	2,460,768	2,520,093
販売費及び一般管理費	2,465,300	2,380,726
営業利益又は営業損失（△）	△4,531	139,366
営業外収益		
受取利息	9,269	8,615
受取地代家賃	22,518	－
その他	19,197	16,180
営業外収益合計	50,985	24,795
営業外費用		
支払利息	37,119	38,426
営業外費用合計	37,119	38,426
経常利益	9,334	125,735
特別損失		
固定資産除却損	23,882	1,633
賃貸借契約解約損	54,221	－
特別損失合計	78,104	1,633
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△68,770	124,102
法人税、住民税及び事業税	△58,696	41,206
法人税等調整額	40,996	20,465
法人税等合計	△17,700	61,671
少数株主損益調整前四半期純利益	－	62,430
少数株主損失（△）	△2,150	△422
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△48,919	62,852

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第３四半期連結累計期間 (自 平成21年11月１日 至 平成22年７月31日)	当第３四半期連結累計期間 (自 平成22年11月１日 至 平成23年７月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	484,988	726,657
減価償却費	758,495	666,747
減損損失	－	5,283
のれん償却額	56,954	56,954
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	－	158,479
投資有価証券売却損益（△は益）	－	△28,795
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△59	△37
賞与引当金の増減額（△は減少）	△47,950	△50,000
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△4,748	△3,311
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	－	△4,197
受取利息及び受取配当金	△28,572	△26,921
支払利息	109,318	112,851
固定資産除却損	37,789	1,633
賃貸借契約解約損	54,221	－
売上債権の増減額（△は増加）	29,123	△6,999
たな卸資産の増減額（△は増加）	△154,860	△67,711
仕入債務の増減額（△は減少）	247,693	1,494,932
未払消費税等の増減額（△は減少）	△92,486	20,871
長期前払費用の増減額（△は増加）	181,316	△14,165
その他	131,322	159,724
小計	1,762,546	3,201,997
利息及び配当金の受取額	1,534	1,152
利息の支払額	△107,639	△113,972
法人税等の支払額	△352,206	△351,340
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,304,234	2,737,836
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△158,460	△107,295
無形固定資産の取得による支出	△500	△2,049
投資有価証券の取得による支出	△575	△307
投資有価証券の売却による収入	－	40,110
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△630,313	－
関係会社株式の取得による支出	－	△24,500
敷金及び保証金の回収による収入	270,087	233,825
敷金及び保証金の差入による支出	△201,000	△65,725
その他	13,081	9,010
投資活動によるキャッシュ・フロー	△707,680	83,067

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 平成21年11月１日 至 平成22年７月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 平成22年11月１日 至 平成23年７月31日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△350,328	－
長期借入れによる収入	730,000	700,000
長期借入金の返済による支出	△1,220,241	△874,811
リース債務の返済による支出	△518,026	△422,463
配当金の支払額	△179,010	△265,929
その他	－	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,537,606	△863,202
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△941,052	1,957,702
現金及び現金同等物の期首残高	4,062,065	1,192,313
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,121,012	3,150,016

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第３四半期連結累計期間（自 平成22年11月１日 至 平成23年７月31日）

該当事項はありません。

(5) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更

	当第３四半期連結累計期間 （自　平成22年11月１日 至　平成23年７月31日）
持分法の適用に関する事項の変更	(1)持分法適用関連会社の変更 当第３四半期連結会計期間より、新たに設立したTSUTAYA STATIONERY NETWORK㈱を持分法の適用の範囲に含めております。なお、当第３四半期連結会計期間末日をみなし取得日としております。 (2)変更後の持分法適用関連会社の数 １社
会計処理基準に関する事項の変更	(資産除去債務に関する会計基準等の適用) 第１四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準委員会　平成20年３月31日　企業会計基準第18号）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会　平成20年３月31日　企業会計基準適用指針第21号）を適用しております。 この変更により、従来と同様の方法によった場合に比べ、当第３四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益はそれぞれ19,789千円、税金等調整前四半期純利益は178,269千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は367,166千円であります。 (不動産賃貸収入の計上区分の変更) 従来、テナントからの賃貸料収入は、営業外収益の受取地代家賃として計上しておりましたが、第１四半期連結会計期間より、賃貸料収入は売上高に、対応する原価は売上原価に含めて計上することに変更いたしました。 これは、今後の店舗政策として、集客力の向上を図るために異業種のテナントを入れた大型店舗による新規出店及び既存店の改修を行っていく方針が明確となったため、テナントからの賃貸料収入の金額的重要性が今後さらに高まることから、実態をより適切に表示するために行ったものであります。 この変更により、従来と同一の基準によった場合に比べ、当第３四半期連結累計期間の売上高が110,781千円、売上総利益が44,303千円、営業利益が70,328千円それぞれ増加しておりますが、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

(6) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第３四半期連結累計期間(自 平成21年11月１日 至 平成22年７月31日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める「小売事業」の割合が、いずれも90%を超えるため、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第３四半期連結累計期間(自 平成21年11月１日 至 平成22年７月31日)

在外子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第３四半期連結累計期間(自 平成21年11月１日 至 平成22年７月31日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

【セグメント情報】

（追加情報）

第１四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号　平成21年３月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号　平成20年３月21日）を適用しております。

１．報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は主に、商品・サービス別の事業会社を置き、各事業会社は、取扱う商品・サービスについて包括的な事業戦略の立案並びに事業活動を展開しております。

したがって、事業会社を基礎とした商品・サービス別の事業セグメントから構成されており、「蔦屋書店事業」を報告セグメントとしております。

「蔦屋書店事業」は、書籍、CD・DVD、文具・雑貨等の販売およびCD・DVD等のレンタルを取扱うチェーンストアを事業展開しております。

２．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第３四半期連結累計期間（自　平成22年11月１日　至　平成23年７月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント	その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	蔦屋書店事業				
売上高					
外部顧客への売上高	24,507,569	775,187	25,282,756	－	25,282,756
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	3,799	3,799	△ 3,799	－
計	24,507,569	778,987	25,286,556	△ 3,799	25,282,756
セグメント利益又は損失（△）	843,101	△13	843,088	61,245	904,333

（注）１　「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業及びスポーツ関連事業を含んでおります。

２　セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

３　セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第３四半期連結会計期間（自 平成23年５月１日 至 平成23年７月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント	その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	蔦屋書店事業				
売上高					
外部顧客への売上高	7,541,027	204,274	7,745,301	－	7,745,301
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	1,786	1,786	△ 1,786	－
計	7,541,027	206,061	7,747,088	△ 1,786	7,745,301
セグメント利益又は損失（△）	120,878	△ 1,926	118,951	20,415	139,366

（注）１ 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業及びスポーツ関連事業を含んでおります。

２ セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

３ セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第３四半期連結会計期間（自 平成23年５月１日 至 平成23年７月31日）

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

(7) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第３四半期連結累計期間（自 平成22年11月１日 至 平成23年７月31日）

該当事項はありません。

4. 補足情報

商品別売上状況

セグメントの名称		当第３四半期連結会計期間 （自　平成23年５月１日 至　平成23年７月31日）		
		売上高 （千円）	構成比 （%）	前年同期比 （%）
蔦屋書店事業	書籍	3,293,274	42.5	101.1
	レンタル	1,881,087	24.3	103.8
	販売用CD	739,935	9.5	105.8
	文具	518,873	6.7	100.8
	販売用DVD	448,562	5.8	107.4
	ゲーム	170,278	2.2	65.6
	リサイクル	50,065	0.6	107.0
	その他	438,949	5.7	94.7
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—
	計	7,541,027	97.3	100.9
その他	外部顧客に対する売上高	204,274	2.7	95.6
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,786	0.0	163.8
	計	206,061	2.7	95.9
合計		7,747,088	100.0	100.8

（注）１　上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
２　セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。
３　蔦屋書店事業の「その他」は、電化製品、生テープ、図書カードほかであります。
４　第１四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号　平成21年３月27日）および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号　平成20年３月21日）を適用しております。上記の前年同期比は、前第３四半期連結会計期間の数値を当社の報告セグメントに変更したものとして、組替えて算出しております。